

## 豊田地区の自治会長連合会・まちづくり協議会の合同視察研修について

豊田地区まちづくり協議会会長

- 1 実施日 平成29年7月7日(金)～8日(土)
- 2 主催 豊田地区自治会長連合会・豊田地区まちづくり協議会
- 3 場所 長野県白馬村役場ほか
- 4 目的 平成27年11月22日夜、長野県北部を震源とする長野県北部地震(震度6弱)が発生し、多数の家が倒壊する中、近助の力により「死傷者がゼロ」であった“白馬の奇跡”と称賛されている長野県白馬村の地震対応のノウハウを学ぶ

豊田地区では、自治会長連合会・まちづくり協議会共催で、毎年交互に「健康」と「防災」に対する合同視察研修を実施しており、昨年の藤枝市の健康に続き、今年は防災関連として長野県北部地震の際、近助の力により「死傷者がゼロ」「白馬の奇跡」と言われている長野県白馬村役場と連絡を取り、今後30年以内に70%の確率で発生すると言われている南関東地震に対し、少しでも「減災」「防災」に役立てようと、地区内の自治会長を中心とした有志28名が参加して実施した。

白馬村役場にて、当時の白馬村神城・堀之内地区の鎌倉宏区長から当時の講演を受けた。その講演内容は次のとおりである。

平成27年11月22日夜、長野県北部で発生したマグニチュード6.7の地震では、全壊33戸・半壊21戸と住宅被害が54戸に達したにもかかわらず、死亡者はゼロであった。地震の規模が大きく、ほかの地震に比べて震源の深さが5キロと非常に浅かった点を考慮すれば、この長野県北部地震での「死亡者ゼロ」は、ほとんど奇跡的で、“白馬の奇跡”といわれている所以である。

地震は同じ規模でも震源地の断層や該当地域の地質などによって被害が変わる。2004年に発生した新潟県中越地震の場合、震源の深さがより深かったにもかかわらず死亡者は68人に達した。したがって「死亡者ゼロ」の秘訣には別の要因があったのである。

今回の地震で最も被害が大きかった白馬村では、住民26人が崩れた建物の下敷きになったが、近隣住民によって全員が救助された。家が崩れなかった住民たちが、崩壊した家屋に集まって初期救助に積極的に取り組んだためだ。建物の残骸を片付ける住民、そして下敷きになった住民に「頑張れ」「今、救助隊が到着するから少しだけこらえて」などと大声で応援する住民たちの「役割分担」もあった。

崩壊したある住宅では、消防署員と近隣住民5人が2歳男児と3歳女児の命を救った。視覚障害のある1人暮らしの高齢者の家に入って救助したのも近隣住民だった。

鎌倉宏区長は「日常の積み重ねで強いコミュニケーションが培われ、住民間の強い連帯感があったから『死傷者ゼロ』が可能だった」として「住民たちの安否確認も順調に行われた」と話した。鎌倉区長によれば普段から76世帯220人全員の顔をみな知っていたという。

又区長によれば、この地区では隣の家では誰がどの部屋に寝ているまで分かっていた。このコミュニケーションが最大の防災力になったと話された。

その原点は、「2011年に東日本大震災」で、どの家に何人暮らしていて、1人暮らしの高齢者がどこにいるかを詳細に記した『村地図』を作ると共に、「支え合いマップ」(要支援者は誰が支援するのか)を作り、地区の親戚同士を「要支援者と支援者の関係」を築いていったと話された。

**鎌倉区長は最後に「一番大きな防災力は、地域のコミュニケーションである」と締めくくった。**

当豊田地区でも自主防災組織があるが、まだ100%には至っていない。今回の研修での教訓を生かして、減災・防災に取り組んでいく考えである。

当時対応に当たった鎌倉 宏 神代・堀之内地区区長



白馬村役場での講演会の様子



長野県白馬村の位置



白馬村堀之内公民館の様子



神代断層帯の地震

倒壊した家 ①



倒壊した家②

倒壊した寺院



白馬村役場にて 28名の参加者



1129年度 豊田地区自治会長連合会・まちづくり協議会合同視察研修 (7/7 白馬村役場)

長野オリンピックジャンプ台前での記念撮影



平成29年度 豊田地区自治会長連合会・まちづくり協議会 長野県白馬村合同視察研修 (撮影は白馬オリンピックジャンプ台 2017/8)